6　英語（専門教科）・英語理解（専門科目）の実践事例

〔ステップ１〕単元①における 課題と改善策

単元　「Lesson 3 FREE THE CHILDREN」（４時間）
教科書「Unicorn English Course Ⅱ」pp.31～44
（文英堂）

概要

○　児童労働に関するテキストを正確に読ませた上で、課題に対して自分は何ができるか考えさせ、ペアで意見交換させた。

○　ほかの生徒の意見を踏まえて、自分の意見を述べることに課題があったため、ほかの生徒の意見と比較して自分の意見を言わせるよう促したことで、ほかの生徒の意見を踏まえ、自分の意見を表現することができていた。

課題

○　**生徒たちに、自らの考えの深化を実感させることが課題となった。**
　ほかの生徒との意見交換を通じて、自らの考えを深めたり、発展したりしたことを実感させることができなかった。

○　**生徒の実態に合わせた教材の選定が課題となった。**
　テキストの内容が易しすぎたことから、生徒の実態を踏まえた発展的な内容を扱うことが必要であった。

改善策

○　**単元を通して、要旨に直結する質問を繰り返し、生徒たちに考えさせ表現させる機会を作る**
　英文テキストを読ませたり、クラスメートとの意見交換をさせたりするたびに、要旨に直結する質問を投げ掛け考えさせ、自分の考えについて合理的に説明させることで、課題に対する自分の意識や考えを確認させる機会を作ることとした。

○　**難解な内容であっても、その概要を捉えさせる読みを取り入れる**
　発展的な内容として、実際のスピーチを聞かせたり、スピーチ原稿を読ませたりすることによって、概要を捉えさせることとした。

〔ステップ２〕単元②における 成果と課題及び改善策

単元　「Lesson 6 Lone Vote」（３時間）
教科書「Unicorn English Course Ⅱ」pp.86～98
（文英堂）

１　単元指導計画

	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	英語表現の能力	英語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	単元で身に付けさせたい力
単元の評価規準	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図る。	アメリカ初の女性連邦議会議員ジャネット・ランキンおよび、現連邦議会議員であるバーバラ・リーの信念に基づく行動に関して、自らの考えや評価など、伝えたいことを整理して英語で話したり書いたりして表現する。	アメリカ初の女性連邦議会議員ジャネット・ランキンおよび、現連邦議会議員であるバーバラ・リーの信念に基づく行動に関して、英語を読んだり聞いたりして、情報や考えを整理して理解する。	アメリカ初の女性連邦議会議員ジャネット・ランキンおよび、現連邦議会議員であるバーバラ・リーの信念に基づく行動に関しての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付け、その背景にある文化などを理解する。	・人物の行動や発言を自分の考えや経験に照らし合わせて評価する力 ・情報を正確に受け取るだけでなく、その情報について正当性や合理性を判断する力

※　表中の「関」＝コミュニケーションへの関心・意欲・態度、「表」＝外国語表現の能力、
「理」＝外国語理解の能力、「知」＝言語や文化についての知識・理解

次	時	評価の観点				評価の方法	主たる活動	指導上の留意点・ポイント
		関	表	理	知			
1	1			○	○	行動の確認	○教科書のテキストを読み、ジャネット・ランキンの半生について正しく理解する。	・テキストを読み、情報を整理して正しく理解させる。
2	2				○	行動の観察	○「9･11 同時テロ」に関して、アメリカ合衆国がうけたダメージ、およびアメリカ合衆国が軍事行動に至った経緯について映像を通して学び、その行動を評価し英語で表現する。	・軍事行動への世論の高まりをブッシュ大統領の演説を通して感じ取らせる。
3	3	○	○			行動の確認 記述の確認	○バーバラ・リーの 2001 年９月 14 日の議会での演説を聞き、その概要を正確に理解する。リーの行動をジャネット・ランキンの行動と対比させながら評価し、自分の考えを明確に英語で表現し、伝え合う。	・演説を聞き、さらに原稿を読み、バーバラ・リーの主張の概要を正確に理解させる。

２　本時の展開（本時は第３時）

【本時の目標】
○　バーバラ・リーの行動を評価し、自分の考えを英語で表現し伝え合う。

分	学習活動	学習活動における評価規準	評価方法
7分 8分 20 分 10 分	○「９.11 同時テロ」に対して、報復すべきであるという世論の高まりの中で、軍事行動にただ１人反対したバーバラ・リーの 2001 年９月 14 日の連邦議会での演説を聞き、彼女の主張の概要を理解する。 ○バーバラ・リーの演説の原稿を読み、その要点をペアで正確に捉える。 ○ジャネット・ランキンの行動と、バーバラ・リーの行動の類似点を指摘しつつ、バーバラ・リーの行動を評価し、ペアで自らの意見を伝え合う。 ○意見交換の結果をクラスに発表する。	【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図る。 【英語表現の能力】 アメリカ初の女性連邦議会議員ジャネット・ランキンおよび、現連邦議会議員であるバーバラ･リーの信念に基づく行動に関して、自らの考えや評価など、伝えたいことを整理して英語で話したり書いたりして表現する。	行動の観察 行動の確認

３　言語活動の充実を図る指導の工夫

(1) 考えを持たせ、広げさせる工夫

◎　同じ質問を繰り返し、生徒に考えさせ、表現させる

英文等の内容を踏まえて、生徒の考えを引き出すために、要旨に直結する質問を繰り返し、生徒に考えさせた。具体的な質問は次のとおりである。

第１時	あなたは戦争に反対か。ジャネット・ランキンの主張に同意するか。
第２時	アメリカの軍事行動についてどう思うか、そしてあなたはアメリカの軍事行動に賛成か反対か。
第３時	バーバラ・リーの行動をどう思うか。彼女を支持するか。ジャネット・ランキンと比較しながら意見を書きなさい。

英語のテキストやスピーチを正確に理解させるだけではなく、自分の考えや経験に基づいて、批判的に考えさせることを意図した。要旨に直結する質問を繰り返し、生徒に考えさせ、表現させることによって、自分の考えの深まりや発展を実感させることも期待できる。

◎　生徒の多様な考えを認め、その理由や根拠を考えさせる

答えが一つに絞れない課題を与え、それについて生徒に考えさせることが大切である。相手の意向やテキストの内容を正確に理解することは、知的活動の基礎となるものだが、それだけでは、「英語表現の能力」を育成しているとは言えない。答えが一つに絞れない課題を与え、それについて考えさせた上で、意見表明させることを目指している。そのために、英語で授業を行い、生徒に英語で考えさせたり、議論させたりするなど、自然に発言できる授業の雰囲気づくりや生徒の多様な考えを認めることが大切である。

◎　ICT 機器を活用することで、教材の理解を深める

生徒たちは、2001 年の「９.11 同時テロ」当時、６～７歳だったため背景知識が十分とは言えない。また、映像によって視覚的に当時のアメリカの時代背景をつかませたかったこともあり、実際の映像を生徒たちに見せることとした。そうすることで、より実感を持って考えさせることができる。特にスピーチは、話し手の表情や声の強弱など、文字では伝わらない臨場感があるため、ICT 機器を活用することは有効だと考えた。

(2) 考えを深めさせる工夫

◎　ペアワークにより、ほかの生徒の考えを知る場面を作る

生徒に考えさせるだけでなく、ほかの生徒の考えを知ることによって、新たな気付きが期待でき、自らの考えを深めていくこともできる。また、自分の考えをほかの生徒に表現することになることから、単元を通じて意見交換に取り組ませることとした。本時の授業においても、質問に対する考えをまず個人で考え記述させてから、ペアワークに取り組ませた。自分の考えを持たせないでペアワークを行うと、相手の考えを聞くだけに終わってしまう可能性がある。時間を区切って、まず自分の考えを持たせた上で、ほかの生徒の考えを知る場面を作った。

◎　教科書以外の教材を与える

発展的な内容として、様々な教材を与えることによって、生徒の考えを深めさせるように心掛けている。例えば、この単元では、2001 年の「９.11 同時テロ」に関するブッシュ大統領やバーバラ・リーの演説を聞かせたり、演説原稿を読ませたりした。実際のスピーチを聞かせることやスピーチ原稿を読ませることによって、多様な意見や考えに触れさせ、自らの考えを深めさせることができると考えた。難しい内容であっても、細部まで読むのではなく大意を捉えさせることで、生徒の考えを深めさせることができる。

４　生徒の記述や発表

指名された生徒がクラス全体で発表した内容

生徒Ａの発表

I think she's brave because she must be very angry and sad at the terrorism of September 11, and she had a speech in front of everybody.　And I think she had the courage to do that, so I think she is very brave.

彼女は、９．11 のテロに対してとても怒り、悲しんでいたに違いないので、彼女はとても勇敢だと思います。そして彼女は全員の前で演説をしました。彼女にはそうする勇気があったと思うので、彼女はとても勇敢だと思います。

生徒Ｂの発表

I support her.　I think during her speech she never changed her mind.　Although she was so angry, she was so calm to tell her feeling towards everyone.　I also think that Jeannette Rankin's opinion and Lee's opinion were similar.　Also they both expressed their feeling from their calm standpoint.

私は彼女を支持します。彼女は演説の間、彼女は考えを決して変えなかったと思います。彼女はとても怒っていたけれど、全員に向かって自分の感情を伝えるくらい非常に冷静でした。また、ジャネット・ランキンと（バーバラ・）リーの意見は似ていると思います。彼女たちは二人とも冷静な立場で自分の感情を表現しました。

自らの考えや評価など、理由を明らかにした上で、整理して英語で発表できていた。

《単元の振り返りの記述》

◎　ジャネット・ランキン、ジョージ・ブッシュ、バーバラ・リーらの行動を自分の考えに照らし合わせて評価することができましたか。具体的に例を挙げて回答してください。

○　ジャネットとバーバラの意見はとても似ていて、女性の立場として共感した。ジョージは、国家をまとめる人であるから、少しの犠牲も仕方ないと考え、行動を起こしたのだと思う。それぞれの立場によって考えが異なるから、自分も学生の目線でいろいろな考えを吸収でき、参考になった。
○　ジャネット・ランキンは前例のない状況の中で、しかも女性で、当時はまだ男性の上院議員が多かったと思うので、一人戦争反対の意志を明確にした勇気と正義感溢れる人だと思った。バーバラ・リーはさらに具体例を挙げて説得力のある演説をしていて、とても思慮深い人だと感じた。
○　ジャネット・ランキンとバーバラ・リーは正論を言ったと思うし、彼女たちは回りに流されずにいた。ブッシュ大統領は、今では批判されているが、ほとんどの国民が賛成したことから、当時の状況を考えると正しいことをしたのだと思った。

「登場人物の行動について、どう評価するか、また自分ならどう行動するか」という記述から、単元で身に付けさせる力である「情報を正確に受け取るだけでなく、その情報について正当性や合理性を判断する力」の育成に役立っていたことが分かった。

◎　ほかの生徒の意見や考えで印象に残ったことを挙げてください。

○　私は戦争に反対だが、「戦争は仕方がない」と思う人もいること。
○　アメリカが反撃するしか国民が納得する術がなかったこと。
○　アメリカ軍は、テロリストがいる可能性がある場所に爆弾を落としていったこと。

意見交換の活動が、クラスメートの意見を単に把握するだけでなく、新たな知識を得る場にもなっていたことがうかがえた。

５　実践の成果

○　単に英文を読むだけでなく、要約や意見交換といった言語活動を通して、自分の意見を深めていくことが見てとれた。
○　単元の振り返りの記述からは、ほかの生徒たちの意見を自分の意見に照らし合わせて評価させ、表現させたことにより、情報や意見を正しく判断する力の育成に役立ったことが分かった。
○　「登場人物の行動をあなたは支持するか」、「登場人物の行動について、自分ならどうする、どう評価する」といったことを生徒に問い掛け、表現させたことによって、情報を正確に受け取るだけでなく、その情報について正当性や合理性を判断する思考力を身に付けさせることができた。
○　以上のような指導の工夫を行ったことで、本時の目標である「バーバラ・リーの行動を評価し、自分の考えを英語で表現し伝え合う」は、生徒の行動・言動を観察することにより、全員がおおむね満足できる状況に達していた。

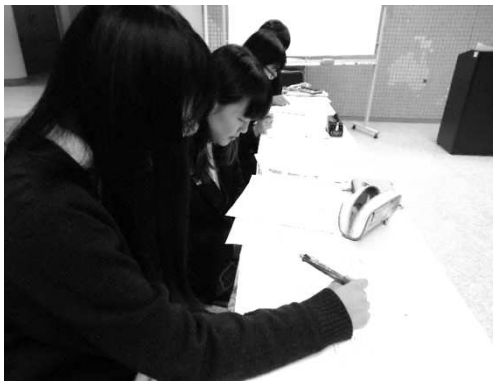
６　実践の課題と改善策

課題

○　生徒たちに考えさせる内容であったので、もう１時間を計画に加え、生徒の意見交換に少し時間を掛けると、さらに良かった。

改善策

○　グループでの意見交換では、多様な考えや意見に触れることができるので、ペアでの意見交換の後、グループでの意見交換といった活動を加える。



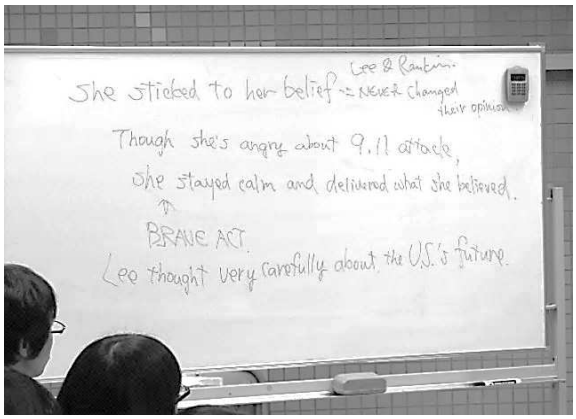
〔ステップ３〕
年間指導計画作成の視点

◎　繰り返すことで慣れさせる

１回目の単元では､ほかの生徒の意見と比較して自分の意見を伝えることはできるようになったが、ほかの生徒との意見交換を通じて、自らの考えの深化を実感させることが課題となった。そこで、２回目の単元においては、単元を通して、要旨に直結する質問を投げ掛けて考えさせ、表現させることにした。具体的には、英文テキストを読ませたり、ほかの生徒との意見交換をさせたりするたびに要旨に直結する質問を投げ掛け考えさせ、自分の考えについて合理的に説明させることで、課題に対する自分の意識や考えを確認させた。

また、生徒の実態に合わせた教材の選定が課題となったことから、難解な内容であっても、その概要を捉えさせる読みを取り入れた。具体的には、発展的な内容として、実際のスピーチを聞かせたり、スピーチ原稿を読ませたりすることによって、概要を捉えさせた。実は、４月当初の生徒たちは、英文を読むときに、隅から隅まで語句の意味を日本語で理解しなければと考えていた。そこで、「概要をつかめればよい」、「何が要点か読み取ることが大切」と繰り返し指導してきた。４月から繰り返し、生徒に取り組ませてきたことによって、要点がつかめるようになった。

生徒に、要旨に直結する質問を繰り返し、表現させる機会を多く持ったことによって、情報を正確に受け取るだけでなく、その情報について正当性や合理性を判断する思考力を身に付けさせることができた。生徒の実態を踏まえ、自らの考えを表現させることを繰り返すことで、言語活動に慣れさせることができ、より生徒の考えを深めさせたり、発展させたりすることができる。今後は、読んだ内容を踏まえて、討論やディベートといった活動を行わせることができる。



7　実践事例から得られたこと

この項では、調査研究協力員による２回の言語活動の充実に焦点を当てた単元の授業実践を通じて得られた指導の工夫を、「考えを持たせ、広げさせる工夫」、「考えを深めさせる工夫」及び「時間の確保」の三つに分けてまとめます。

(1) 考えを持たせ、広げさせる工夫

生徒に考えを持たせ、広げさせるための指導の工夫を二つにまとめました。

ア　考えさせる視点を与える

課題に取り組ませる際に、何をどのように考えたらよいかが分からなければ、生徒に考えさせることはできないでしょう。そのために、例えば、何かに置き換えて考える、対比されているものに注目させる、あるいは、基礎的・基本的な知識・技能を想起させるといったことが考えられます。さらに、考えさせる視点を、例えばキーワードとして与えておき、黒板等に掲示しておく工夫をすることも考えられます。こうした工夫を行うことで、生徒たちが、考えがまとまらない時でも、キーワードに戻って、考え直すことができます。このように、何に着目し、どのように考えればよいかの視点を与え、言語活動を充実させていきたいものです。

イ　段階を追って考えさせる

生徒に「理由を考えなさい」と課題を与えても、すぐには書けないこともあります。理由を言葉で説明させたことがなければ、うまく表現できないかもしれませんし、どのように表現したらよいか分からないかもしれません。そこで、いきなり理由を考えさせるのではなく、例えば、「AかBのどちらになると思うか」と二者択一で選択させます。この段階で、まず生徒たちは「Aかな？Bかな？」と考えることになります。理由が明確でないかもしれませんが、二者択一ですと、生徒たちにとって選択しやすいことが考えられます。さらに、自分で選択した内容については、理由を何とか考えようとするでしょう。いきなり理由を考えさせるのではなく、段階を追って考えさせることが大切だと分かりました。生徒の実態を踏まえ、順を追って段階的に考えることができるような課題の提示の仕方を工夫しましょう。

(2) 考えを深めさせる工夫

生徒の考えを深めさせる指導の工夫として、次の四つにまとめました。

ア　生徒の考えを全体で考えさせる

生徒が考えたことを発表させた場合に、「合っている」、「正解」などと授業者がすぐに判定していると、生徒は考えることをせずに、授業者が正解を言うのを待つ受け身の姿勢になります。そこで、生徒が発表したら、クラス全体に「合っているかな？」、「この考え方はどう思う？」などと質問をすることで、考えさせる場面を作り出すことができます。生徒の答えが間違っている場合でも、「なぜ間違っているか」や「どのように改善すればよいのか」と考えさせることもできます。生徒の考えを全体で共有することで、言語活動の充実を図ることが期待できますので、思考力・判断力・表現力等を育成する機会として活用していきたいものです。

イ　ほかの生徒の考えを知る場面を作る

ほかの生徒の考えを知る場面を作ることは、言語活動の充実を図るために欠かせないことです。しかし、グループでの話合いが全てではありません。例えば、ペアで意見交換させたり、クラス全体に発表させたり、プレゼンテーションソフトを使用してほかの生徒の記述を参考にさせたりといった工夫も考えられます。大切なことは、生徒たちが自分の考えを別の角度から見直す場面を作ることなのです。

しかし、生徒たちに自分の考えを持たせないで、ほかの生徒の考えを知る場面を作ると、単にほかの生徒の考えを聞くだけに終わってしまう可能性があります。生徒全員に主体的に課題に取り組ませ、自分の考えを持たせた上で、少人数のペアやグループで話し合わせたり、意見交換させたりすることで、自分の考えを別の角度から見直すことができます。ペアやグループで話し合わせてから、クラス全体に発表させることで、ほかの生徒の考えを知る場面を、さらに作りだすことができます。

ウ　生徒の多様な考えを認め、その理由や根拠を考えさせる

国語や外国語（英語）等において、題材について理解させた上で、自分の考えを表現させる場合に、生徒の多様な考えを認め、単なる感想や印象にとどめず、なぜそのような考えを持ったのかを問いましょう。理由を考えさせることによって、まとまった考えとなることが期待できます。授業者の考えを生徒に押し付けることのないように留意します。授業者が多様な考えを認め、生徒に自分なりの考えを持たせた上で、意見交換等を通じて、生徒自身に考えを深めさせていくことが重要だからです。

さらに、題材について自分の考えと照らし合わせて評価させることも可能です。自分は作者の考えに賛成か反対か、そしてなぜそう考えたかを問うことで、批判的な考え方を養うことができます。単元全体を通じて要旨に直結する質問を、何回も生徒に問い掛けることで、生徒が考えを深めていくことが期待できます。言語活動の充実を図ることによって、思考力・判断力・表現力等を身に付けさせることが目的ですので、生徒自身に自らの考えの深化に気付かせることが大切です。

エ　教科書以外の教材を与える

教科書だけでなく、教科書に関連した教材を与えて、生徒に考えさせる場面を作ることもできます。国語や英語の教科書に掲載されている題材は、原典とは違っている場合があります。生徒の実態を考慮した上で、例えば、原典を与えて教科書の題材と比較させたり、さらに深く考えさせたりすることも考えられます。そのことで、教科書の題材に対するより深い理解を促すことも期待できます。

また、映像を活用することも考えられます。例えば、教科書の題材の背景知識を与えるために、実際の映像を見せることは、その当時の時代背景等を理解させるのに適したものと言えます。その後、課題を与えて考えさせる場合にも、より実感を持って考えさせることができるでしょう。

今回の実践事例にはありませんでしたが、例えばほかの教科の教員との連携も考えられます。例えば、国語や外国語（英語）で、クローンなどの生命科学に関する題材を扱う場合、生物の教員に、題材についての背景知識を説明してもらうことが考えられます。児童労働に関する題材については、地理歴史・公民科の教員に実態を話してもらったり、あるいは関連する資料や写真等の資料をインターネットで検索し、生徒に示したりといったことも考えられます。いずれも、生徒の視野を広げ、より実感を持って考えさせるために、教科書を教えるのではなく、教科書で教える工夫として、取り入れたいものです。

(3) 時間の確保

言語活動の充実を図るためには、生徒たちの考える時間を授業の中で十分に確保することが大切ですので、そのための指導の工夫をまとめました。

ア　教員の説明・指示を控える

教員が説明する一斉授業では、生徒は教員の説明を聞いたり、板書を写したりすることはあっても、考えることはあまりできないでしょう。言語活動の充実を図るためには、授業の中に、生徒が考える時間を確保することが重要だと分かります。生徒が記述したり、ペアやグループで意見交換したりしている間は、教員はできるだけ説明や指示を控え、生徒たちが活動できるように心掛けましょう。教員の説明や指示があると、その間生徒たちの思考が止まります。また、教員の説明や指示が頻繁に入ると、生徒たちは教員の説明や指示を聞かなくなります。そうすると、どうしても伝えたい内容があっても、生徒たちが説明や指示を聞かないといったことが起こります。そのためにも、教員の説明や指示のときは、生徒に顔を上げて聞くようにさせた上で、生徒が考える時間は、説明や指示を控え、生徒の活動の時間を確保しましょう。

イ　ICT 機器の活用

生徒に考えさせる時間を確保するためには、ICT 機器の活用を積極的に図ることが考えられます。例えば、生徒に発表させる場合、課題となることが、発表を聞いている生徒にどのように理解させるかということです。板書させるとなると、非常に時間が掛かり説明まで行えなかったり、板書の文字が小さくてほかの生徒たちが見えなかったりといったことが起こり得ます。そこで書画カメラといった ICT 機器の活用が考えられます。生徒が記述したワークシートやノートの記述をそのまま投影することができ、板書の時間を省くことができます。継続して使用していくと、投影の際に、見やすいように生徒たちが、濃くはっきり書くようになるなど慣れてくることが考えられます。ただし、条件によっては、うまく投影できない場合もありますので、事前によく操作に慣れておく必要があります。

ウ　授業時間以外に取り組ませる

限られた授業時間の中で、生徒たちに十分に考えさせるためには、授業時間以外の取組みを活用することが考えられます。例えば、あらかじめ題材の文章をざっと読ませて概要をつかませてくることで、授業では、内容に関して初発の感想を言わせたり、意見交換させたりすることができます。また、視点を与えて読ませてくることで、授業では、視点の確認から始めることができます。生徒にとって何をどうすればよいのかが明確で、授業時間外に取り組んできたことが、必ず授業につながる内容であることが大切です。

さらに、単元のまとめとして長期休業中を利用して、レポートやエッセイに取り組ませるといったことも考えられます。単元を通じて深まった考えを振り返らせ再度個人で取り組ませることで、さらに考えを深めることが期待できます。年間指導計画に明確に位置付け、生徒に学習目標をあらかじめ示しておくことによって、学習意欲を高めることが期待できます。